

沖小だより



令和8年9月第14号
門真市立沖小学校
校長 吉川 茂樹

言葉の重みと、あたたかい心を通わせる学校づくり

秋も深まり、子供たちは学習や運動に日々力いっぱい取り組んでいます。学校では、一人一人が安心して過ごし、豊かに学べる環境づくりを最優先に進めております。

さて、学校では日頃より「言葉の使い方」や「相手を思いやる心」について指導を行っておりますが、時に、相手を深く傷つける言葉や文字による表現が見られ、指導を行うことがあります。

言葉や文字は、人の心を温かく結びつける力を持つ一方で、使い方を誤れば、目に見えない大きな傷を相手の心に残してしまいます。たとえ冗談のつもりでも、直接口にしなくても、相手の尊厳や心を脅かすような言葉は、いかなる理由があっても許されません。



学校では、以下の取り組みを改めて徹底してまいります。

①許されない言動への毅然とした指導

相手を傷つける言葉や態度は、発見次第、教職員が一つ一つ丁寧かつ毅然と指導します。

②人権意識・思いやりの心を育む道德・学級活動の推進

自分の言葉が相手にどう影響するかを自覚し、相手の立場に立って行動できるよう、具体的な場面を通じた指導を続けます。

③安心・安全な学習環境の維持と見守り

子供たちの些細な変化を見逃さないよう、休み時間や活動時の見守りを強化し、必要に応じて丁寧な聞き取りや個別のフォローを行います。

ご家庭におかれましても、お子様の日頃の様子やお友達とのやり取りについて温かく見守っていただくとともに、「言葉の重み」や「相手を大切にする心」をぜひ話題にいただければ幸いです。

不安なことや気になることがございましたら、一人で抱え込まず、いつでも学校へご相談ください。ご家庭と手を携え、子供たちの笑顔と安全を守ってまいります。

